

[特別展示]

後藤新平

蒲生 英博¹⁾，直江千寿子²⁾，山内 一信^{3,4,5)}，高橋 昭³⁾

¹⁾名古屋大学大学文書資料室，²⁾名古屋大学附属図書館医学部分館

³⁾名古屋大学，⁴⁾藤田医科大学，⁵⁾東員病院

1 後藤新平について

後藤新平(1857-1929)は明治から昭和初期にかけて活躍した政治家であるが、そのキャリアは医師から始まった。後藤は1857(安政4)年に陸奥国胆沢郡塩釜村(現 岩手県奥州市水沢区)の留守氏家臣の家に生まれ、福島県の須賀川医学校を卒業後、1876(明治9)年愛知県公立病院(名古屋大学医学部附属病院の前身)に三等医師として着任した。当時の公立病院にはオーストリア人医師ローレツ(1846-1884)と、病院副教師兼医学所教師兼通弁として司馬凌海(1839-1879)がいた。後藤は西南戦争負傷兵治療のために大阪陸軍臨時病院に転任すると、病院長の石黒忠恵(1845-1941)から外科治療の指導を受け、内務省衛生局入りを勧められた。後藤の有能さを見抜いていたローレツは公立病院へ戻ることを要請し、戻った後藤新平は、1881(明治14)年に改称された愛知医学校と愛知病院の校長兼院長となった。

1883(明治16)年内務省衛生局に入り、1890(明治23)年ドイツへ留学し、その後、南満州鉄道初代総裁や東京市長などを務め、1923(大正12)年の関東大震災後の東京復興計画を立案し、ソ連との国交回復に尽力した。後藤はアイデアに溢れた大胆な構想から「大風呂敷」と評された。

2 特別展示「後藤新平」の概要

特別展示は、名古屋時代を中心とする後藤新平の業績や記録による「後藤新平とその時代」と、後藤の生きた時代背景を明らかにするため、幕末から昭和に至る関連史料による「後藤新平とその周辺」により構成する。展示品は名古屋大学の附属図書館医学部分館内にある医学部史料室の所蔵資料が中心であるが、附属図書館中央図書館、大学文書資料室の協力も得た。

主な展示品は、次のとおりである。()内は説明。

(1) 後藤新平とその時代

- ・後藤新平／後藤新平とローレツの鶏卵紙写真 1880年(裏面「岩手県平民 医士 後藤新平 齡廿三年」)
- ・『愛知県公立病院及医学校第一報告』1880年(今日の大学の事業報告書／事業計画書の先駆け)
- ・『愛衆社型典彙編』1880年／『愛衆社規則』1886年(愛知県下の医師を組織して設立した衛生会)
- ・後藤先生講義「外科手術略記」1881年頃(後藤新平の講義を筆記した講義録)
- ・医学卒業候事 1881年(デザインは後藤新平が考案した)
- ・後藤新平撰述『海水功用論 完 附海浜療法』1882年(公命により調査。海水浴の医療的効用を説く)

(2) 後藤新平とその周辺

- ・伊藤圭介『泰西本草名疏』1829年(リンネの分類法を日本に初めて紹介)
- ・司馬凌海『七新葉』1862年(ボンベの書齋の医学書から選んだ7種類の薬物の薬理作用)
- ・『名古屋県病院規則』1871年(名古屋藩評定所跡に公立の仮病院が開設された)
- ・『大阪錦画新聞』ヨングハンス植皮手術 1875年(日本初といわれる皮膚移植手術)
- ・愛知県公立病院及医学校之平面図 1878年頃(建物は木柱泥壁の従来の日本風に少し洋風を混用)

-
- ・老烈氏講義『皮膚病論一斑』1880年（ローレツの講義録で、ヘーブラの皮膚科学を初めて紹介）
 - ・川原汎『内科学神経篇通論 全』1887年（川原汎の講義を筆記した講義録）
 - ・コッホ博士来名記念の写真 1908年（北里柴三郎，志賀潔，熊谷幸之輔，川原汎らが並ぶ）